

平成26年12月定例会 経済委員会（付託）

平成26年12月16日（火）

〔委員会の概要 商工労働部関係〕

喜多委員長

ただいまから、経済委員会を開会いたします。（10時33分）

直ちに議事に入ります。

これより商工労働部関係の審査を行います。

商工労働部関係の付託議案については、さきの委員会において説明を聴取したところですが、この際、理事者側から報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【報告事項】

- 「大雪に係る災害に関する特別相談窓口」及び「年末資金繰り特別相談窓口」の開設について（資料①）
- 平成27年度に向けた商工労働部の施策の基本方針について（資料②）
- 企業誘致の推進について（資料③）

酒池商工労働部長

この際、3点御報告させていただきます。

お手元の資料1を御覧ください。

第1点目は、「大雪に係る災害に関する特別相談窓口」及び「年末資金繰り特別相談窓口」の開設についてであります。

この度の大雪に係る商工労働部の対応といたしまして、12月5日に国道192号で立ち往生した車両の燃料調達について、国土交通省からの要請を受け、協定を締結している県石油商業組合に直ちに協力を依頼し、道路通行確保のため軽油及びガソリンの手配を行ったところであります。また、県内企業からのきめ細かな相談に応じるため、去る12月12日、企業支援課内に「大雪に係る災害に関する特別相談窓口」及び「年末資金繰り特別相談窓口」を開設いたしました。

商工労働部といたしましては、これら相談窓口と県内経済団体等の経営支援機能を連携させ、県内企業の経営をしっかりと支援してまいりたいと考えております。

第2点目は、平成27年度に向けた商工労働部の施策の基本方針についてであります。

お手元の資料2を御覧ください。

来年度の商工労働部の施策の方向性を取りまとめた「宝の島・徳島」経済成長戦略について、御説明いたします。

まず、現状と課題であります。

国の経済政策により、企業収益や雇用情勢の改善等、都市部や大企業を中心に回復傾向にありますが、本県中小企業の消費税増税や円安による影響を把握するため、出前相談を実施いたしましたところ、消費意欲の低迷や収益力の低下といった経営に対する懸念や、

積極的な成長戦略・経済対策の要望などの声をお聞きいたしました。

こうした現状をしっかりと踏まえ、国の成長戦略や地方創生本部等の取組に呼応した柔軟な施策展開、多様な働き方の実現による産業人材の育成・確保及び活躍の場の創造、2020年を見据えた交流人口の拡大と新たなビジネスの創出を3本柱に、人口減少により顕在化する労働力・消費・事業者の三つの減少を克服し、徳島経済の持続的成長・発展を目指したいと考えております。

具体的には、Action I からⅢで構成いたします経済成長を牽引するトリプルコアの戦略並びに、ActionⅣ及びⅤから成る本県経済を支えるベースラインの強化により、迅速かつ確実に施策を展開してまいります。

まず、Action I の「強みを活かした成長産業の創出・集積」では、戦略的企業誘致の促進とクリエイティブ関連企業の集積により、映像やデザインなどのクリエイティブ産業の誘致・集積を推進し、新ビジネスの創出を図ることにより、全国から注目される魅力ある地方都市の創成につなげてまいります。

また、ロボット技術導入の需要が高い介護分野への導入を視野に、産学官連携による技術研究開発を進めるとともに、LEDをはじめ、高い技術力を有する本県ものづくり企業の産業競争力強化を図る地域イノベーションの加速化などを進めてまいります。

次に、ActionⅡの「交流人口の拡大による経済の活性化」では、「おどる宝島！とくしま」キャンペーンの強化として、大鳴門橋開通30周年をはじめとするトピックスを生かし、旅行エージェントへの営業強化による旅行商品の造成促進のほか、アニメの活用や「おどる宝島！パスポート」の充実による誘客コンテンツの整備により、特に経済効果の高い宿泊者数の増に向けまして、効果の高いところに重点的に打つ形で観光誘客にしっかりと取り組んでまいります。

また、外国人旅行者数が増大するオリンピック東京大会等の開催に焦点を合わせ、観光誘客のための情報発信はもとより、タクシー・宿泊施設におけるホスピタリティーの向上などの受入環境の整備を図ってまいります。

次に、ActionⅢの「とくしまグローバル戦略の加速化」では、ミラノ国際博覧会への出展や重点的戦略地域である東アジア・東南アジア諸国への戦略的海外プロモーションによる外国人観光誘客の推進、地域商社を活用した県内企業の海外市場への参入支援などによる企業ニーズに沿った海外「販路開拓」の展開などを進めてまいります。

次に、ActionⅣの「頑張る企業に対する効果的な経営支援」では、小規模事業者の振興による経済基盤の強化として、商工団体等と連携し、事業者の課題やニーズに応じた伴走型支援の充実による足腰の強い企業の体質づくりや円滑な事業承継を進め、本県経済を支える小規模事業者の活力向上につなげてまいります。

また、創業者の飛躍を強力にサポートとして、確かな経済・雇用基盤の形成のため、若者や女性が創業しやすい環境を整備するとともに、創業者のビジネスプラン策定から事業が軌道に乗るまでのフォローアップを積極的に行ってまいります。

次に、ActionⅤの「産業人材の育成と確保」では、最大の潜在力、女性の力をフルに発揮として、企業の意識改革とともに女性の更なる活躍の場の拡大と多様な人材が活躍でき

る働き方を推進してまいります。

また、徳島の未来を担う若い力を育成・確保するため、本県産業の競争力を高める上で最も重要である人材について、企業ニーズに合わせた、職業能力開発のための訓練や大学等と連携した講座の開催等により、産業人材の育成及び確保に取り組んでまいります。こうした取組により、地域産業の競争力強化と地域人材の育成により人口減少を迎え撃つとの気概を持ち、着実な施策展開を図ってまいります。

なお、ただいま御説明申し上げました内容につきましては、県民の皆様にも広くお知らせすることといたしております。

第3点目は、企業誘致の推進についてであります。

お手元の資料3を御覧ください。

企業誘致につきましては、成長分野にターゲットを絞った、本県独自のワンストップ・サービスによる効果的な誘致活動を展開してきております。

この度、徳島市に本社を置く船場化成株式会社が、阿波市の西長峰工場におきまして、ポリエチレン製品の生産拡大のため、新たな設備投資を行うこととなり、12名程度の新規雇用が予定されております。

今後とも、企業誘致フォーラムの開催をはじめとした積極的な企業誘致活動を展開し、県内経済の活性化と雇用の創出に取り組んでまいります。

報告につきましては、以上でございます。

よろしく願いいたします。

喜多委員長

以上で、報告は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

来代委員

雪の対策もありがたいんですが、部長が報告してくれたこの大雪により事業所等に被害を受けた中小企業を対象とした相談窓口って、被害を受けた人は一般の人ばかりなんです。これは格好だけ作ったような気がするんだけど相談窓口にも企業がどれくらい申し込んでくると予測していますか。

脇田企業支援課長

ただいま来代委員から相談窓口についての御質問をいただきました。

現在のところ相談というのはございませんけれども今後大雪の被害が見込まれるということ、それから年末に資金繰りという面から相談ということが非常に重要だと考え、窓口を設置させていただいたところでございます。

来代委員

雪の被害を受けた人は一般の人ばかり。あんたは行ってないから分からないんです。商売人さんがいるのは井川町の阿波屋さんというスーパーだけです。上はどこも店屋はない。漆川もJAの支所が1件あるだけで何もなし。だから申し込むわけがないんです。

それよりも個人の暖房器具について、四国電力とか県がオール電化を勧めたから金持ちの家ほとんどがオール電化にした。だから、石油ストーブもない。コンロもない。温風ヒーターも電源がなかったら入らない。電話も黒電話はかかるけれども、インターネットにつないだ電話は全部かからない。だから元の石油ストーブの一つでも、あるいはいろいろでも灯油のやつがあるからそういうのをこれからお金のない1人暮らしの人とか一般の人が生活資金として借りられるような制度を設けるべきです。

商工会議所といたって池田の町まで行くわけないでしょ。もっと町の中の集会所にそういう一般向けの5万円でも10万円でも貸してあげるような制度を設けるべきじゃないかと思いますが、いかがですか。

脇田企業支援課長

来代委員から一般向けの相談を設けてはどうかという御質問ですけれども、我々商工労働部といたしましては、商工企業者の皆様の支援が非常に重要でございますのでそういった観点から窓口を設けさせていただいております。

来代委員

だから、これは雪で何かせないかんというから思いつきを書いたようなものでしょうが。ただの格好だけじゃないですか。現場も見ていないわけでしょ。見ていない者がこんなものを書いたってできるわけじゃないの。

だからこれはただの議会用か県民用か知らんけどもパフォーマンスだけじゃないか。もうちょっと地に足の着いたことをやらないかん。

それで、次の本題に入るけども。

私は、「vs東京」で知事も徳島県も東京に負けたらいかんって頑張ってくれるって思っていました。私も東京に行って文句言うてこいって強くやりました。ところが東京に行ってくれたら舛添さんと知事が一緒に仲良くやるっていうような趣旨の新聞報道。

「vs東京」をやめてラブラブ東京に変えたらどうですか。

酒池商工労働部長

先般私も新聞の紙面のほうで「対」という字で東京都知事と知事が会談をしたという記事を拝見しました。

もともと「vs東京」につきましてはそれぞれの地域が独自の魅力を磨いて発信することによって切磋琢磨してその結果、東京が魅力的で世界的な都市になって日本全体が活性化していくということを意味していると認識しております。結果として、東京と地方それぞれが相乗効果を生み出してうまくやっていくような意味合いだと思っております。その一番槍を徳島が付けるんだという認識をしております。

来代委員

それじゃ分かんわけです。

県の名刺にも封筒にも全部「vs東京」「vs東京」、テレビのワイドショーも「vs東京」。私、2回ワイドショーで取り上げられました。

我々は地方の意地を見せるって言うからすごく喜んでおったんです。だけどあれじゃ完全にラブラブでしょ。追随東京でしょうが。何のために800万円も1,000万円も掛けてええ格好やったんですか。

ヴォルティスだってあれだけ金掛けて、宣伝して何ですか。皆さん格好だけ付けたらええというもんじゃないでしょ。

少しは、「vs東京」もヴォルティスも県としての反省の弁はないんですか。

新居にぎわいづくり課長

徳島ヴォルティスのことについて、来代委員から御指摘をいただいたところでございます。

結果的にJ2に落ちてしまいましたけれども、私といたしましては、先日の最終戦のガンバ戦でございますが、1万7,274名のお客様、そしてそのうち大阪から6,000人のガンバサポーターが来てというような状況で…（「それは優勝するから来とるんじゃないわ」と言う者あり）それは、あるんですけれども、あのガンバを相手にヴォルティスが善戦いたしました。勝つことはできませんでしたが、引き分けました。その気持ちを持って来シーズン、この機運を絶やさぬように頑張っていきたいと思っております。

来シーズンJ2降格でございますけれども、頑張っただ徳島の意地を見せていけるように私達も全力で応援していきたいと思っておりますので、どうか御理解いただければと思います。よろしく願いいたします。

来代委員

ちょっとおさらいしましょう。

この「vs東京」で幾ら金を掛けて経済効果がどれだけあったか。ヴォルティスもこの1年間で経済効果がどれだけあったか。掛けた費用と見込みの利益で3億円も4億円も、もうかるように言っておったけれども、その結果どうなったか。単純に、損したとか得したとかもうけたとか。

「vs東京」とヴォルティスの収支決算だけ教えてください。

新居にぎわいづくり課長

徳島ヴォルティスのお話をさせていただきます。

試合が終わりまして平均観客者数が8,884名でございます。これは昨年に比べますと約2倍、それからアウェーサポーターにつきましては平均で1,573名。昨シーズンは300名でしたので5倍になっております。数としては今こういう状況でございます。

また我々は毎回毎回アウェイサポーターにアンケートを取っておりましたが、その宿泊率は45%でした。当初3割とっておりましたので思った以上の宿泊があったとおります。

今お話がございました経済波及効果につきましては、掛かりました事業費等々について市町村からもいろいろとお力を借りながら経費の精算を現在行っているところでございます。この経費が全て集まってまいりましたら、J1おもてなし事業に掛けた経費が出てまいりますので、それをもちまして経済波及効果について検証させていただき、御報告させていただきたいと思っております。

来代委員

悪口を言っているわけじゃないんだから、見込みでいいんです。

新居にぎわいづくり課長

前回お話させてさせていただきましたときには28億円と申し上げましたが、その思わくよりは少なかったというのは間違いないと思っております。

金額については精査させていただきますのでお時間をいただければと思っております。

酒池商工労働部長

「vs東京」の関連につきましては、政策創造部が所管しておりますので、今日来代委員から御質問いただいた件については十分お伝えしてまいりたいと思っております。

来代委員

見込みがこれくらいでこういう結果だったと、J2なら今度はこれくらい頑張ってもらわないといけないという見込みを課長のところで言うべきなんです。

新居にぎわいづくり課長

今年の検証につきましては現在経費を集計中ですので少々お待ちいただければと思います。

来代委員

今は12月議会なんです。ヴォルティスの試合が終わってからこれだけ日がたって、衆議院選挙もあってこれだけ日が延びているわけです。皆さんは選挙運動したらいかんのだから、今日議会でそれくらい聞かれるということは分かっているはずですよ。それくらいはちゃんとしておくのが県庁に課せられた役目じゃないんですか。

その「vs東京」、あるいはこういう気の弱さをvsイコールラブラブ、追随と訳したとしたら、その追随の姿勢が四国電力に対して何も言えないから結果的にこの大雪の被害も出てきたと取ってもいいかと思うんです。

企業局が所管する水力発電所の1キロワットアワー5円の電力を四国電力が25円で売っ

て70億円、90億円の利益を上げていると言われておるんです。これは企業局のほうで数字が出ておるわけです。にもかかわらず四国電力は、太陽光は48円、42円で買う。結果的にはもうからんから太陽光の電気はもう買いませんと。地元が一方的にやられても県は何も言えない。

そして、また電線にしても、少々の木で倒れないようなもっと太い電線をきちんと張っておけば一般の人が雪による停電の被害に遭うことは一切なかった。暖房もない、食べ物もないところで震えながら1週間も過ごすことはなかった。

この「vs東京」が追随東京になっているように、追随電力、企業に負ける。その姿勢がこういう雪の被害をもたらしたんじゃないかと思うんです。

ヴォルティスだってもっと負けん気でいけば勝っていたかもわかりません。この根性のなさというのが県民からみたら歯がゆいんです。

だから四国電力に対して、切れない太い電線をきちんと張るように言う。若しくは、県に任せないで四国電力が自分で木を切って自分の電線を守るべきじゃないですか。

それぐらい強いことを県は言えないんですか。

酒池商工労働部長

ただいま来代委員のほうから御指摘をいただきました。

今回は倒木による被害とはいえ、電線が切断されてライフラインが途切れて生活に大きな支障が生じたということにつきましては、今後四国電力等に対しまして、電気の安定供給かつ継続できる対策を講じる必要があると私どもも認識しております。

今後、危機管理部等の庁内の関係部局と連携し、協議をさせていただきまして四国電力に対しましては災害に強いインフラの構築、あるいは万が一、被災した場合におきましても一刻も早く住民の方々が不安や不便を解消できるような早期の復旧対策をあらかじめ検討しておくことが必要でないかと思っております。

こうした点につきまして、関係部局とも連携をして、四国電力等に対して申入れをしてまいりたいと考えております。

来代委員

「vs東京」、J1ヴォルティスとあなた方は自分の心の中だけで騒いでいるんです。

今の答弁でいつ知事と一緒に四国電力に申込みに行きます、危機管理部長と一緒に県を挙げていつ四国電力に行きますと、その日付をはっきりと答えるべきでしょう。

酒池商工労働部長

四国電力に対しまして、関係部局と申入れをするということについては、即座にやってまいりたいと思います。

知事と幹部等の申入れにつきましては、今後早急に検討してまいりたいと考えております。

来代委員

四国電力は何もしていないわけです。危機管理部長あるいは商工労働部の担当が知事なのか副知事なのか分からんけれども、知事だっていつ4選を表明するかどうかももう県民が期待しているんです。

そういう知事への期待があるのなら、また知事が動いてくれるのなら、「vs東京」の気持ちがあるのなら、vs四国電力のつもりで、この議会が終わったら早急に行きますという答弁はできないんですか。

酒池商工労働部長

我々、関係部局と四国電力に対して申入れをするのは早急にできるということで御答弁させていただきましても、知事とか副知事等の幹部につきましては、これから関係部局とも相談しまして、速やかに検討したいと考えております。

来代委員

酒池部長さんは、秘書課長で知事から一番の信任を得ていたわけでしょう。知事は商工労働部といったらオンリーワン商工労働部という陰口も当時はあったくらいです。

だったら、もっと知事に物言っただけはすぐに行くべきだと。この議会の昼休みにでも知事に四国電力へと申入れしてください。できませんか。

酒池商工労働部長

その件については、先ほどと同じになりますけれども、危機管理部等と十分相談をして速やかに対応してまいりたいと考えておりますので御理解賜りますよう、よろしくお願いいたします。

来代委員

相談じゃないんです。知事に勧告といったら言葉が悪いけど、そういうことをするべきだということを強く知事に訴えますという答弁じゃないんですか。

県民がこれだけ大変なのに、余りにも四国電力がわがまま過ぎるじゃないですか。内情は分かりませんが、我々が端から見ておる限り四国電力はちょっと勝手すぎるような気がします。それに対して負けたらいかん。

vsで、もう一回きちんとした答弁お願いします。

酒池商工労働部長

ただいま来代委員から御指摘いただきました相談といたしますのは、関係部局、危機管理部が統括しておりますのでそういったところに相談して、知事に対しましては、その関係部局と一緒に話をしていきたいと思っております。

来代委員

お昼の時間にでも言ってください。

ちょっと県とか国とか市に責任を持っていき過ぎています。

切れた電線は、四国電力の電線です。それと電線の横にある木が大きくなるのは自然の原理です。

閉会日に我々も長期的な総合的視野に立ってということではいろんな勉強をします。

長期的にとというのは県庁ばかりが考えんと四国電力がもうちょっと長期的に考えるべきなんです。だから四国電力の対応の遅れについては、やっぱりきちんと申し入れるべきなんです。相談相談って気の弱いことじゃいかん。もっと強く申し入れてください。

酒池商工労働部長

四国電力につきましては、早急に今御指摘いただいた件につきまして申入れをしたいと思っております。

来代委員

もしもできないんだったら、これが前の知事のとときだったらわしも知事呼んでくれと言うけど、今は言えないから。

本当にこの件については、県民から見たら憤りというか歯がゆさがある。それだけは、はっきりしてください。

酒池商工労働部長

早急に知事に対して話をしたいと思っております。

森本委員

関連で。

四国電力に対しては、私も四国電力と聞いただけでかっつとくるほうなんでね。四国電力との力関係については一般質問でも言いました。

来代委員が言われたけど、今の知事はすごく四国電力にはいろんな面で強い姿勢で臨んでいるんじゃないかと思えます。千葉社長を知事室で一喝したこともあるし。今、来代委員が四国電力のほうへみんなで行ってと言ったけど、僕は呼び付けたらいいと思う。

実はこういうことがあった。私の家の隣に大きな屋敷があるんですが、老夫婦がもう亡くなって今は空き家になっています。息子たちが東京にいる。そこの庭がすごく立派で大きな竹を生やしておる。それがどんどん伸びて台風のとときに電線にばさーと当たるんです。これで電線が切れたら助任本町が全部停電になるし、大変だと思ってすぐに四国電力に電話して、すぐに息子なり何なりに連絡をして切らせなさいと言いました。翌日、すぐにやっていました。

だから来代委員が言っていたように、私も立木が伸びるのは当たり前だし、電線を張っておるのは四国電力の責任だと思うし、その立木が人の物であればきちっと交渉をして電線が危ないから切らせてくださいというのは四国電力の仕事の一つだと思います。四国電

力の中には電線担当もありますから。全県的に台風もあるから当然のことながら一日も早く四国電力に県民の安全安心，生活を守るためにきちっとしなさいと命じるべきです。

関係部局と相談をしてと言いましたが，本当に昼休みに相談せないかん。

私のときも電話1本したら，すぐに対応して，ありがとうございますと言っていました。

伸びた竹がしなるでしょ。電線がばちっといったのを僕は窓から見た。これは大変だと思って切らせたわけなんですけれども，またそれが今伸びています。そのあと，ひとつも見に来ない。

木は竹ほど伸びるのは早くないと思います。私は来代委員が怒りの中で言っていたことは，本当に良い提案だと思う。電線と杉の木の関係なんて考えたこともなかった。

また夏になったら台風が来るし，冬には雪が降ります。この提案によって，相当生活が守れるんじゃないかと思います。

知事は多分喜んで四国電力を呼び付けてやると思います。のこのこと皆が行く必要はない，すぐに担当者，支店長を呼び付けたらいいんです。四国電力に対しては，全て呼び付けるとというのが今の知事の基本方針だということを私は聞いていますから。

だから来代委員がおっしゃったことはきちっと本日中に知事に伝えて欲しいし，関係部局と相談する必要があるならば今日中に私はやってもらいたいと思います。

雪は2月まで大分降ると思うし，夏には台風が来ます。電線のそばの木を調べていくこと自体，相当手間も掛かると思います。大変感銘を受けた質問でありました。

もう一つ，ヴォルティス。

来代委員の応援をしているわけではなくて，私も言うつもりでおったんです。

新居課長がボールを蹴っていたわけではないんですけど，やっぱり私は県民に向けて済みませんでしたという言葉が県庁として要ると思います。すごく税金を使っているわけです。それで，あんなお粗末な試合を延々と展開して，とうとうホームゲームで一つも勝てなかった。優勝のプレッシャーがかかっているガンバにやっと引き分けた。あんなものは，ガンバにプレッシャーがあったから引き分けになっただけじゃないですか。普通だったら5-0のケースです。やっぱり県庁として胸張ってJ1であの試合展開をするというのは絶対おかしいし，幾らのお金を投入したのかということもある。

県民全てがサッカー好きな人ばかりじゃないですから，交通渋滞とかで迷惑した人だっているわけです。そういう意味で私はやっぱり県として，多大な公費，税金を掛けましたけれども，こういう結果になりましたと。これからJ2になって当然グレードは下がりますけれども，これからもきちっと県としてできることはしていきたい。そういったコメントをきちっとこの委員会で僕はすべきだと思います。知事がまた記者会見なりで言うべきことなんでしょうけど。

それとやっぱり，平均8,884名なんていうのは，J1で断トツの最低じゃないですか。他県から来た千何人というのもJ1で最低なんです。だから，胸張って誇れる数字でもないです。徳島は遠い，地理的に不利だからこんなことになりましたでは，言い訳にもならないし，それだったらJ1に上がることをやかましく言わなかったらいい。

新居課長が私は選手でないというような顔をして，委員会で答弁するのはおかしい。自

分のこととしてやっぱり受け止めてください。本当にすごくお金を使っているんです。あれだけ迷惑と金を掛けてあのお粗末な成績というのは、僕は物すごく恥ずかしい。

必ずニュースで言われる。あるワイドショーである意味注目をされておったんです。いつ勝つかなというようにことを言ってみんながどっと笑っていました。そのぐらい辱められているチームなんです。それを胸張ってこれからも頑張りますと言ったって、J2ですからもう頑張りようがない。J2で優勝したらまた上がれるでしょうけど。

だけど、今のあの調子やったら、僕は簡単にJ1に復帰するのは難しいと思います。新居課長、もう一遍ちょっとお答えいただけますか。

新居にぎわいづくり課長

森本委員から今期のヴォルティスについて、しっかり総括をして来期に向けての話をせよということでございます。

先ほど申しましたように結果といたしましては、成績が振るわなかったというところがございます。平均来場者数8,884名。確かにJ1というカテゴリーの中では、最低の数字でございます。ただ、去年から比べたらということもございますけれども、昨シーズンからは2倍になり、またサポーターの数も5倍になったということは、報告させていただければと思った次第でございます。

前回の委員会のときにも森本委員からも御指摘がございましたように、J1からJ2に落ちたからJ1に上がるまではもう何もしないということではございません。今回J1になったことで先ほど申しましたように、アウェイサポーターがたくさん徳島に来てくれました。せっかくの機運を絶やすことなく来期もアウェイサポーターがたくさん徳島に来ていただけると見込める試合につきましては、しっかりとPRしていきたいと思っております。

ホームゲーム、アウェイゲーム、それからまた、時節の試合等々の機会を捉えまして、しっかりと徳島をPRし、そしてヴォルティスの試合に来ていただきたいということもPRしていきたいと思っております。

また渋滞対策につきましては、警察からの要請もございますので8,000人を超す規模の試合につきましては、今年1年間の経験を踏まえながら従来どおりやっていきたいと考えてございます。

詳しいところにつきましては、来年度の事業ということでございますので、予算の御審議の中で御論議いただければと思っております。

悪い成績だったことについては確かにそのとおりでございますが、だからこそこでまたもう一度皆様と手を取り合って、ヴォルティスを応援していかねばならないと思っております。どうか御理解いただきまして、またいろいろと御助言いただければと思います。よろしく願いいたします。

森本委員

だから何回も言うけど、分かっていたきたいのは誰もがサッカーを好きなわけじゃな

いし、誰もがヴォルティスのファンじゃないんです。非常にたくさんの税金を使ったし、周辺の人で迷惑を被った人もたくさんいるわけです。その挙げ句の果てが、悪い成績というんじゃない、あのような非常にお粗末な試合です。

「vs東京」と言っている中で、非常に恥ずかしい成績だと私は思うし、やっぱりどんな世界でも最下位になったときとか、最悪のときには誰かが責任を取ったり、責任の弁を言う。それが監督、チームのオーナー、徳島県のどこからも全くない。これに私は腹が立っているんです。ヴォルティスに対して、一体誰から責任の言葉があったんだろうというような書き込みが結構インターネットにあります。そういうことがないのに、あのお粗末な成績で徳島県の恥をさらして堂々と担当課長がそういう答弁をずっと繰り返すということに対してここで言っているわけなんです。

やっぱり恥ずかしかったという思いをしないと、私は次につながらないと思います。悪い成績をとった子に、もうええよええよ、次に頑張ったらええって、そんなんで成績が上がるわけがないんです。やっぱり厳しくするときには厳しくいかないとはいけません。

私は嫌いじゃないんです。だけど、やっぱりちょっとひどかったと思います。ホームゲームで勝ちがゼロというのは、J1に上がった意味が全くない。去年から観客数が倍になりましたって、そんなのは当たり前です。J2からJ1になったら、何倍にもならなかったら全く意味がないし、変わらないのであれば、ずっとJ2でいたらいい。

そういう意味でやっぱり、私は公費を投入する以上は、肝に銘じて支援してもらいたいという意味で厳しく質問をいたしました。

それとあと一つが、私のメインです。

一般質問でも知事に、多選の関連で言ったことがあります。知事もアイデアマンですから非常にいろんな提案をしている。それが結局、失敗に終わっているものもたくさんある。それなのに非常に意地っ張りな人ですから、意地を張ってなかなかやめない。そういう中で、職員も非常に困っている部分がたくさんある。

その一つとして、今から質問するのは対中国戦略についてです。私は、上海事務所を含めてやめたらいいと思うし、対中国のいろんなチャーター便にも腹が立つことがたくさんありました。その中で、五、六年前に鳴り物入りでやかましく言って当時騒がれました。糖尿病の医療ツーリズムについて、どうなっていますか。

藪下国際戦略課長

ただいま委員のほうから医療観光についての御質問をいただきました。

本県におきましては、これまで世界レベルの糖尿病研究開発、また拠点の形成を目指して、健康・医療クラスター構想に基づきまして、徳島大学等々また地域との協力のもとに、先進的な医療サービス、また、豊かな地域資源を活用した医療観光ということで、アニメや「マチ★アソビ」、それから「とくしまマラソン」などと並びながら、徳島ならではの重要なニューツーリズムの一つとして取り組んでまいりました。

現在におきましても、各国でのPR、プロモーション、それから展示会等々で、この医療観光につきましてアピールをさせていただいているところでございます。

森本委員

五、六年前のあの医療ツーリズムの企画というのは、まだ継続をしておるわけですか。

藪下国際戦略課長

医療観光につきましては、平成21年度から取組を始めて現在に至っておるわけですが、助成制度などにも取り組んでおりまして、現在も継続して取り組ませていただいております。

森本委員

継続して、いろいろPRをしていると言われてましたけど、予算は幾らぐらい入れているんですか。

藪下国際戦略課長

予算に対する御質問でございます。

これにつきましては、先ほど申しましたように平成21年度から取り組んでおります。

当初、平成22年3月にモニターツアーということで取り組みまして、助成金なども含めまして、この平成21年度以降で合計640万円程度の予算を使わせていただいたところでございます。

森本委員

利用者の数を言ってもらおうと思ったけど、分かっていることをいちいちこちらが聞くこともないので言いましょうか。

平成22年3月、第1回モニターツアー、全額旅費も出してあげて中国人を呼んだのが10人。そして平成22年5月に5人、平成22年10月に川島病院に呼んだのが4人、平成23年1人が1人、平成23年もう一回あって、2月に1人、3月に2人、6月に1人、平成23年12月1人、平成24年3月に2人。2年間飛んで、今年が3人。

これが、徳島県の皆さんが進めてきた医療観光の実態です。これがどれだけ県益に反映したかと言ったら多分ゼロだし、どう考えてもお金の無駄です。

無料で呼んだら中国人というのは来ます。だけど、進んで来た人は多分いないと思います。突然思い付いて中国から飛んでくる人が、1人で来るわけがない。

だから医療観光なんていうのは、初年度から完全に破綻しているんじゃないですか。これを微々たるものでも毎年毎年税金を使って、こういうことをPRしていますと言ったってPR効果はゼロ以下です。

糖尿病研究という意味では、私は良いと思うんです。医療クラスターで指定を受けてやってきたというのは、全く文句もないし、日本で一番糖尿病死が多いという徳島県を逆手にとって、そういった制度を導入して糖尿病の研究する。糖尿病患者を減らすための医療を進めるといえるのはすばらしいことなんですけれども。こういう医療ツーリズムはもうい

いかげんにやめないといけない。こういう数字を知事も知っているのかな、知っているんだらうけどね。

課長，どう思いますか。毎回1人ってどういう実態なんですか。何者が来ているんですか。

藪下国際戦略課長

今までの医療観光の実績などについての御質問でございます。

中身につきましては、委員から年々の人数については御紹介いただいたところでございます。残念ながら、昨年度につきましては、委員からもお話があったとおりにゼロということで、今年につきましては、数名来ていただいているところでございます。今年も私どものいろいろなプロモーション等々もさせていただいたと思いますけれども、今年は中国から検診に来ていただいたと伺っております。

このような難しい状況は、委員からお話があったとおりでございます。平成21年度から取組を始めまして、この間、残念ながら尖閣諸島に端を發します日中関係の悪化等もございまして、中国人観光客自体が激減したといったような状況もございまして、当初は医療観光への誘客の取組ということで、先ほど申しましたように中国を中心に取り組んできたわけでございます。現在につきましては、グローバル戦略ということで、徳島大学病院の多様な項目にわたります検査内容といった優位性をアピールさせていただくとともに、阿波おどりとか「マチ★アソビ」など、徳島ならではの観光資源を組み合わせる形でPRさせていただいております。

また、この9月には韓国のほうで、日中韓の3国の地方政府の交流会議などもございました。副知事に出席していただきまして、医療観光についてのPRをしていただいたり、現在、私自身も香港、台湾などにもPRに赴いているところでございますが、各旅行会社を回る際にも、こういった医療観光について、先ほど申しましたように徳島ならではの観光資源と併せながらPRを一生懸命させていただいているところでございますので、御理解賜ればと思います。よろしくお願いいたします。

森本委員

医療ツーリズムは思い付きで始めたんだらうと思うけど、例えば、東南アジア、フィリピンとかバンコクはすごいんです。超高級ホテル以上の病院に年間何千人も中国から行っています。そういうのを見たら、一体PRに幾らお金が掛かるのか。あなた自身も台湾に行っているって言ったけど、1人を連れてくるわけですか。毎年ほぼ1人かゼロじゃないですか。これを微々たるものでも延々と予算を組んだら、いけないと思います。あなた自身が5年間で640万円というお金を出せますか。

これは100%駄目です。駄目だけどもあえてこの委員会で言っているのは、予算を組んでいる中に既得権益も含めて駄目なことがいっぱいあるからなんです。やっぱり駄目なものは駄目だと、どんどんどんどん切っていくという民間並みの感覚でいかないといけない。

何でこんなことに我々の税金を使われないといけないんですか。我々のって、皆さんの

税金も含まれるんです。そこを僕は言っているわけです。その一つの例として医療ツーリズムを挙げたわけです。

知事にも一般質問で、意固地にならないで駄目なものは駄目とぽっとやめて、どんどん展開したほうがいいですよということを言いました。これは担当者、部長からも言うべきです。こんなものをいつまで続けるわけですか。1人、2人、ゼロというのが2年続いている。これでPRに努めています、海外へも行きますと言ったって、その旅費を誰が出すわけですか。六百数十万円をこの五、六年で使ったってこんなばかな話はない。

だからいいかげんにこれを検討しないと、こういうことを県民が知ったらびっくりします。俺も機会があったら、選挙戦も通じてこれからこういう話もしていこうと思う。

あなただけのことじゃなく県庁全体の問題としてこういうことが多い。これは非常に大事なことだと思います。

部長、今の課長のお話からはこの事業が延々と続いていくようなイメージを受けたんですけれども、どうですか。

酒池商工労働部長

また繰り返しになるかもわかりませんが、医療観光につきましては、委員さんのほうからも最初に御紹介いただきましたように、健康・医療クラスターということで、糖尿病に関する創薬とか、あと医療機器といったものを開発するサービスクラスターということで、そこから生み出されたものを活用しております。今かなり糖尿病の方が増えていますから国内外から誘客をして、そういった方々の検診をして、徳島の強みである食材、ヘルシーメニューをプラスして観光につなげていくという目的で始めております。

御指摘のとおり、中国との間における尖閣諸島問題等によりまして非常に人数は少なくなってきました。それともう一つは、徳島大学病院で開発したモデルでございますのでキャパシティの問題もございます。こういったものを今後、鳴門病院等や民間に技術移転することについても今取り組んでおります。

国内からも糖尿病に関しましては運動療法等も求められておりますので、四国八十八箇所なども加えた新たな医療観光をこれからも検討、追求していきたいと考えております。

森本委員

今の答弁を聞いても、もう大概にしないといけないと思う。

徳島大学病院が糖尿病の研究をしているのと、これは全く別次元の話です。さっきの答弁はもっとひどかった。「マチ★アソビ」や阿波おどりで遊んでもらってって。何年に1人来る中国人を「マチ★アソビ」で遊んでもらうわけですか。新居課長が連れて歩くわけですか。とんでもない話です。六百何万円が少ないと思ったら大間違いです。中国人1人を呼ぶのに、我々がどうして600万円も掛けないといけないんですか。

だからきちんと検討して、やめるんだったらやめる。糖尿病研究とこれは全く別次元です。徳島県の糖尿病研究がそんなにすごいんだったら、中国人に頼らなくても東京から何万人も来ます。

上海事務所もそうだけど駄目なものは駄目でぱっと切り替えんと本当に私はいけないと思う。モニターツアーは最初の10名だけじゃないですか。旅費から飯代からホテル代から全部こっちがお金を出して、いまだに似たようなことが続いている。六、七年で21人ですよ。最初の10人除いたら、5年間で10人。予算をこういうことに組むということは本当にばかばかしいし、おかしいし、こうして税金をいつまでもだらだらと出し続けることは県民に対する物すごい背任行為だと思います。自分のお金だったらそんな無駄なことはできないでしょう。

だから、強く申し入れたいと思います。一日も早くやめて、予算の中からきちっと削除してください。私が今これだけ言ったのでまさか新年度予算に持ち越さないと思いますけれども御検討をよろしくお願いいたします。

庄野委員

宿泊者数のことについて、少しお聞きしたいと思います。

新聞報道ですけれども、2014年宿泊者数で全国最下位を脱出できるかもしれないという情報が載っていました。現行方式の調査が始まった2010年以降、徳島県はずっと4年連続で宿泊者数が全国最下位ということでございまして、今までこの委員会でも宿泊者数のことについては随分議論されてきたと思います。

報道を読みますと四国霊場の開創1200年のこと、サッカーのヴォルティスのこととか、あと青色発光ダイオード、LED王国としても追い風が吹いているということでした。上半期の1月から6月の宿泊者数が前年比8%増の113万人で、奈良の102万人を上回っているということでございまして、最下位から一番上がって46位になれるんじゃないかという報道でした。

この報道にもあるんですけれども2012年と2013年で結構ですので、四国のほか3県の宿泊者数の状況はどうですか。大きく離されているんですか。

仁木観光政策課長

宿泊者数の状況でございますが、観光庁の宿泊旅行統計調査の数字を申し上げます。

平成25年1年間の確定値が出ておりますので1,000人単位で申し上げます。徳島県が225万6,000人、対前年24%のアップでございました。香川県が358万5,000人、対前年比1%のアップ。それから、愛媛県が359万9,000人、対前年比5.2%の減。高知県が287万3,000人、対前年7%減。これが平成25年暦年の状況でございます。

それから、今発表されております平成26年1月から6月の半年間の暫定値でございますけれども、徳島県が113万8,000人、対前年8.2%増。香川県が147万8,000人、対前年10.1%減。愛媛県が167万7,000人、対前年2.6%の増。高知県が134万人、対前年3.2%増でございます。

庄野委員

今年の前半部分で言ったら、結構徳島県も頑張っているなという気がいたします。

けれども、愛媛県、香川県、高知県も地の利は本県より悪いように思いますけれども結構泊まられているようです。やっぱり宿泊者数が多くなるということは、それだけ経済効果といいますか、県内業者が潤うのは当たり前のことですので、期待をしているわけですので。「とくしまマラソン」も若干、宿泊者数の増につながっているんだろうと思います。

阿波おどりの期間中は、弾丸ツアーで県外からバスで来てそのまま泊まらずに帰るということもたくさんあります。随分僕も言っているんですけど、例えば阿波おどりに来ていただいた方に県南部や県西部のほうへ足を延ばしていただくとか、そういった工夫をもっとしていただいて、宿泊者数の増、観光客の増、そして徳島県内の宿泊施設を含めた商店街についても活性化ができるような方策を是非つくっていただきたいと思います。

そのためには、例えば温泉のような目玉みたいなものが要ると思います。徳島県内に観光客が来て、なるほどやっぱり徳島ってLEDすごいな、きれいと言われるような、例えばクリスマスツリーをどこか新町川、県庁の近辺にでもつくってあそこのLEDのツリーを見に行きたいというものがあつたらいいと思います。LED王国、王国と言いながらそういうのが余りないような気が私はするので、そんなことも考えていただきたいと思います。

LEDにしてももっとやったらどうですか。外部にそういうアピールできるものをつくるというのも一つだし、それから県庁内においてもこれは管財課のかもいになるので余り聞きませんが、例えば徳島県庁へほかの県から訪れた場合に、さすがLED王国、県庁内にしてもやっぱりすごいなということを見せるべきだと思います。けれども遅々として進んでいない気がいたします。森本委員が言われた医療ツーリズムにお金を掛けるんだったら、県庁内の照明や案内にLEDを使うことにもっと頑張ったほうがいいんじゃないかという気がいたしました。

県庁の照明は全部蛍光灯でしょう。公安委員会に聞いたら信号機なんかは結構もう徳島県は替えていると、信号機は全部替えるということでアピールしています。

徳島県庁舎や議会棟がLED王国の建物のように僕は感じられません。県庁内も含めて、あと観光客が来てちょっと泊まってすてきな景色を見たときにLEDが存在しているというようなことも、もう少し予算を掛けてでも考えてみたらどうですか。クリスマスツリーなんかでも日本中、外国にも負けないぐらいの大きなものをつくったらどうですか。日亜化学工業さんにLEDは寄附してもらおうんです。

そういったアピールについて、どうですか。

森口新産業戦略課長

ただいま庄野委員のほうから、LEDを活用して観光誘客にもっとつなげてはどうか、それから「LED王国・徳島」と言うのであれば、例えば徳島県庁舎等にもっと全面的にLED化を進めるべきではないかという御質問をいただきました。

LEDを用いましたにぎわいづくりについては、現在、新産業戦略課で光の話題づくりということで、県内でいろいろLEDを使ったモニュメントがある場所について県で認定

をする、光の八十八ヶ所という取組をさせていただいております。現在、54か所が登録されておりまして、年間を通じていろいろLEDのモニュメントであったりとか、照明によるにぎわいづくりにいろいろと頑張らせていただいているところでございます。

また冬の期間には、特にLED照明とモニュメントが多くなりますので期間限定のそういったPRもやらせていただいております。LEDバレイ構想のホームページにおいてもそういったところを積極的に発信しておりますので、にぎわいづくりにつなげていければと考えております。

それからもう一つ、本庁舎におけるLED照明の設置状況について管財課の所管ではございますが聞きましたところ、白熱電球のほうがLEDに比べて6倍も電力がかかるということで、県庁舎等を含む水銀ランプや白熱電球については全てLED化が終わっていると聞いております。具体的な場所としましては、県民ホールや議会棟の電球でございます。

一方、蛍光灯についてはまだまだ進んでいない状況だと聞いておりますので、そこら辺については管財課のほうにお伝えしたいと思っております。

新産業戦略課といたしましても、これまでグリーンニューディール基金やお試し発注制度を用いさせていただきまして、県庁のLED化についてはいろいろと貢献してきたところでございます。「LED王国・徳島」といったことで、そこら辺は進めてまいりたいと考えております。

庄野委員

LEDの回答がございました。

例えば県庁舎を訪れる方々、他県から視察に来た方々に、徳島県はLEDで、日亜化学工業さんがあって、ノーベル賞もいただいた県なんですね、やっぱりさすがきれいにやられていると言われるような何かがあればいいと思っております。ただ単にLEDに替えるというのも省エネでいいんですけども、お金も要ることですけどももっと工夫して頑張りたいと思っております。

それと一つの例で、例えばクリスマスツリーのすごいようなもの、神戸のルミナリエのような、あそこは人出もすごいんですけども、来た方が観光スポットみたいな部分で、ちょっと見に行ってみようかと思うような何かができたらいいなと思っていましたので申し上げました。

熊本県庁舎に視察に行ったときのことで、乳がん検診をアピールするピンクリボンがあります。ピンクリボンデーの日にちょうど行ったんですけど庁舎が全面的にピンク色で何か事あるごとにそういう大きなアピールをしていたような例もあります。

お金を掛けてでも、人が訪れてみようかと思うような観光スポットを是非LEDで実現していただきたいと思っておりますけど、どうでしょうか。

脇田企業支援課長

LEDを使った誘客につながるようなものをつくってはどうかという御提言だと思っております。

私どもといたしましても、本会議で樫本委員さんの御質問に知事からお答えもさせていただいたところでございますけれども、まず本県ゆかりの著名なクリエイターの方に協力もいただきながら、そういったLEDを使った誘客も今後検討していきたいと考えております。

本県は、やはりLEDを使ったものということで検討を進めていきたいと考えております。

庄野委員

よろしく申し上げます。

それと今朝テレビのニュースで、東京タワーをプロジェクションマッピングできれいにしていくということが言われていました。そういう質問もこの委員会でもされていましたが、やっぱりそういう技術を使いながら、またLEDも利用しながら、ちょっと行ってみようかなという気持ち、それからちょっと足を延ばして宿泊してみようかなと思う気持ちを起こさせるようなアピールのなものをしっかり考えていただきたいと思っております。

それともう一つ、資料にある障がい者や高齢者の「働きたい」を社会に活かすという、障がい者の雇用の関係について、ちょっとお聞きします。

障がい者の雇用率が、たしか1.8%から2%に引き上げられて、官も民も含めて、障がい者が仕事に参加する、共に生きていける共生のまちづくりをしていくということが言われておるんですけども、本県での雇用率はどうなっておりますか。

谷口労働雇用課長

庄野委員から障がい者雇用率についての御質問をいただきました。

ただいま御質問いただきましたように、障がい者の法定雇用率は今年の平成25年4月から民間企業では1.8%から2.0%に上がったところでございます。また、国、地方公共団体等も2.1%から2.3%、都道府県の教育委員会は2.0%から2.2%となっております。このうち、特に私どもの所管しております民間企業における障がい者雇用率でございますが、厚生労働省より去る11月26日に発表されました平成26年6月1日現在の本県の民間企業における障がい者雇用率は1.90%と、前年より0.12ポイントの増で改善しております。全国平均は1.82%でして、全国で18位、前年度が25位でしたので、かなりアップしたところでございます。

雇用をされている障がい者の数も1,345人となりまして、過去最高を更新しました。さらに法定雇用率の達成企業の割合というのもございまして、これが57.5%、前年の53.3%から4.2%の増ということで、こちらも全国平均を大きく上回っておりますので改善はされつつあるところでございます。

庄野委員

県内の企業における雇用率も皆さん方と企業さんの努力のおかげで上がっているという

ことをごさいます。法定雇用率の突破も含めて、今後とも御尽力をお願いしたいと思いま
す。

やっぱり働くことが生きていく上で非常に重要なことをごさいます。実際に障がいのある
方が働いてお金をもらって生活していく、そういう温かい社会を目指してみんなで努力
をするということは大事だろうと思います。そういう意味で頑張っていたいただきたいと思いま
す。

南委員

私は片仮名の言葉に弱いんですけれども、資料2に書いている地域イノベーションの加
速化について、私が思っているイノベーションという言葉とどうしても結び付かないんで
すが、具体的にどういうことをやろうとしているのか教えてもらえますか。

森口新産業戦略課長

ただいま、平成27年度に向けた商工労働部の施策の基本方針のAction I の地域イノベ
ーションの加速化について御質問をいただきました。

地域イノベーションは、地域から新しいものをいろいろとつくり出していく、産業もの
づくりにいたしましても、これまでにない新しい価値をつくっていく必要がある。それによ
って市場開拓でございませとか、市場確保を図っていく必要がある、まさに競争力を付
ける部分だと考えております。

地域イノベーションにつきましては、ものづくり産業が抱えます課題を、例えば産学官
連携とかいったところで、新たなものを目指していこうということで先ほど部長からも御
説明させていただいたように今、国の成長戦略においてもロボットの部分が非常に着目さ
れております。いろんな分野の活用ということもあります。

一つの例でございませけれども、そういう分野に徳島としても産学官、企業にとっては
新しい取組となりますけれどもその実現を目指していきたいということ、地域に新しいも
のをつくっていききたいという内容でございませ。

南委員

地域からの産業イノベーションという解釈でよろしいんですね。

普通イノベーションというのは、レコードからCDに置き換わってレコード産業が潰れ
たというようなイメージの中で、私は地域イノベーションというと弱小市町村が潰される
ようなイメージを持っていました。言葉がひとり歩きしてしまうと大変なことになると思
ったので聞かせていただきました。

産業のイノベーションを起こして、地域を活性化していくということについては期待し
ておりますので、そういったイノベーションが起こるような画期的な産業興しというのを
進めて行ってほしいと思います。

今日、来代委員や森本委員からいろんな厳しい意見がありましたので、そういうイノベ
ーションを起こすように商工労働部のほうで引っ張っていただけるよう期待してございま
す。

樫本委員

ホームセンターへ行きますとLEDの電球を売っています。家電量販店に行ってももちろん売っています。そこで一番安いのをしてみるとパナソニックとか東芝とか日立ではなくてアイリスオーヤマが一番安い。私はいつもこれを探して買って家のLEDを取り替えています。

アイリスオーヤマは非常に業績を伸ばしています。この企業に徳島へ来てもらうわけにいきませんか。LEDバレイ構想で10社から123社になったでしょう。

ここが多分一番たくさん売っています。これをほかでつくられたらかないません。やっぱり徳島でつくってもらいたい。企業誘致についてどうですか。

脇田企業支援課長

ただいま樫本委員のほうから、アイリスオーヤマを徳島に誘致できないかという御意見をいただきました。

たしか宮城県の企業で、社長が大阪の御出身でなかったかと思えます。言葉が関西弁だったような覚えがございますので関西圏の御出身かなと思うところですがけれども、アイリスオーヤマにかかわらず、我々はLED関連企業について二つの光ということで企業誘致を推進しております。その中で、アイリスオーヤマや類似の会社も含めて企業誘致の営業、企業訪問をどんどん行わせていただいているところでございます。

なかなか企業誘致は、一朝一夕ではいけないところもございませけれども、樫本委員からいただいた御意見も参考にしながら今後進めていきたいと考えております。

樫本委員

是非、来ていただくようにしてください。

ここはマーケットを持っていますから売る力が非常にある。それと、ここが来てくれないんだったら、もう1社、タカショーという会社があります。この関係の企業は、私の地元で協力会社があります。吉田化成というところで、そこは毎年のように工場が大きくなっています。隣、隣へずっと増設してやっています。ここも恐らく売る力を相当持っています。

タカショーは、和歌山県海南市の企業です。ここもホームセンターでエクステリアを中心にたくさん売っていますし、徳島にはちょっと縁があるので、ここへもひとつ声を掛けてやっていただきたい。でも一番よく売っているのは、先ほど言ったアイリスオーヤマだと思います。そこは照明器具も開発しています。

過日12月11日から13日まで東京のビッグサイトであったエコプロダクツ2014にアイリスオーヤマが大きくコーナーを出して、LEDの照明器具を専門にやっていました。徳島の企業は出ていなかった。これは絶対に出ないといけません。これからは是非、行っていただくようお願いしてください。

それと、もう1点。

平成27年度に向けた商工労働部の施策の基本方針で、産業人材の育成と確保、最大の潜在力「女性の力」をフルに発揮と書いてあります。これは、非常に良いことなんです。

女性の力をフルに発揮してもらうために、従来はどちらかというと圧倒的に男性が多い建設業の現場で、女性の重機オペレーターを歓迎する、女性求むオペレーターと広告を出したかったんですが、徳島新聞の広告は女性に限定したらいかんということになっているんです。女性の力をフルに活用したい職種はいろいろあります。オペレーターなんかは従来は男性だけけれども、これからは女性のほうがいいんです。女性のほうがきめ細やかな保守点検をしながら重機の操作をする。男性は大体がいいかげんなんです。あの保守点検をしないとランニングコストがすごく高くなるんです。そういう意味で女性のほうが向いているんです。それなのに従業員として募集しようとしても、女性歓迎と書いたら駄目だと言う。それは駄目なんですか。

谷口労働雇用課長

国においては女性の活躍推進ということで、ポジティブアクションというものを進めております。ちょっと不確かな知識なんですけどポジティブアクションの中では、女性枠の拡大、女性の職域の拡大ということを大きく取り上げています。要するに、女性の管理職の増加、「202030」ということで女性の管理職を増加させるというのが大きなシンボルであります。それを支えるものとして一つは女性の採用枠を拡大しましょう、もう一つは女性の職域を拡大しましょうという考え方があります。さらに管理職の増加について、女性の勤続年数を上げましょう、社風を変えましょうということ、トータルで女性の社会進出、登用を進めるという考え方があります。

委員の御質問について、どの部分までが良いのか悪いのかというのは、今手元に資料等を持ち合わせておりませんので、再度調べて御回答させていただきます。

樫本委員

女性の働く場所を拡大できるんですから、女性歓迎と書いても何ら問題はないと思います。女性の持てる力をそこで生かしていくんだから僕は良いと思います。そういう解釈で是非やっていただきたい。

重清委員

この平成27年度に向けた商工労働部の施策の基本方針で、外国人観光誘客の推進とありますけれども具体的にどういうふうにやろうとしているのか。

今日本は円安で、東京、大阪、神戸、京都にいっぱい外国人が来ていますけど、四国へなかなか外国人が来ないということでもいろいろやっていたんですけど、ここに書かれているので来年度どういうことをして外国人の誘客をしようとしているのかお伺いいたします。

藪下国際戦略課長

ただいま委員から、平成27年度に向けた商工労働部の施策の基本方針のActionⅢのとく

しまグローバル戦略の加速化の中の外国人観光誘客の推進の具体的な取組について御質問をいただきました。

今委員からも少し触れられたところでございますけれども、為替の円安傾向とかLCCの路線の充実、本県から政策提言させていただいて実現いたしました東南アジア諸国のビザの緩和などのもろもろの条件が調ってきたことによりまして、訪日観光全体について追い風が吹いている状況でございます。県においても、行動計画におきまして宿泊者数を5万人にするという目標を掲げまして取り組んできたわけでございます。先ほどもちょっと述べさせていただいたように、海外プロモーションも東アジアのみならず東南アジアに向けてもさせていただいているところでございます。

こういった状況の中、これまでのプロモーション、また国全体としての追い風もあって、効果が出てきたところでございまして、9月の安倍首相の所信表明演説でも引用されましたが、今年1月から6月までにつきましては外国人延べ宿泊者数が前年同期と比べて4割増加しているところでございます。

県におきましても、更なる外国人観光誘客の推進ということで、先ほど東アジアのみならず東南アジアに向けてもプロモーションするということにも触れさせていただきましたが、国によって、地域によってそれぞれの特性を持っております。それらに合わせた誘客に向け、それぞれにプロモーション等を実施していったり、また、効果的な情報発信、SNS等のICTを使った形での情報発信、それからいわゆるMICEといわれるものがございますが、こういったものについての誘致についても取り組んでまいりたい。

それから教育旅行でありますとか「マチ★アソビ」を活用したニューツーリズムの推進、また多言語の受入環境の整備、これらを5本柱として取り組んでまいりたいと思っておりますので、御理解賜りたいと思います。

重清委員

外国人誘客について、今日本は1,000万人を超え、今年は1,300万人に増えて目標は2,000万人と言っています。徳島県はどうやって呼ぶんですかというのを聞きたいんです。東アジアのどこを徳島県は狙っておるんですか。そのために何を売って誘客をしようとしているのか。それが無いでしょう。

今現状で徳島にどれだけ来ているんですか。去年、今年は何人か、そして来年はどういうふうを増やそうとしているのか。そのやり方がいつも全く見えないんです。

それをどうするんですか。他県もどこの国をターゲットにして、こういうやり方でやっていきますと言っています。徳島県は、東アジアという大きな話なのでどこをターゲットにして来年度やろうとしているのか、まずそこだけ教えてください。

藪下国際戦略課長

失礼いたしました。

昨年に比べて今年前半で大体4割増えているということ为先ほど少し数字として触れさせていただきました。

現在、来県が多い香港であるとか中国、また台湾、韓国などを重点地域とさせていただきまして、先ほども申しましたが、SNSなどの情報、それから先頃の中四国サミットとか近畿ブロック知事会議で本県からも御提案させていただきましたレンタカーの周遊割引を活用したモデルコースの提案、また先ほど触れました「マチ★アソビ」、それからニューツーリズムといったところの取組を強化していきたいと思っております。

またビザの要件が緩和されましたタイ、それからマレーシアをはじめとしたムスリム地域などにつきましても精力的に取り組んでいきたいと考えております。

重清委員

今タイとかマレーシアと言ったんですけど、徳島の観光の何を売っていくんですか。PRとしては、何を目玉にして来てくださいますかと言っていてやっていくのか。

ツーリズムも言われていますけど、先ほど言っていた医療と観光の何を徳島の目玉にするのか見えないんですけど。

藪下国際戦略課長

目玉についてでございます。

これは香港、台湾、東アジアに限らず、本県の優れた自然、それから食も非常に喜ばれるところがございますので、こういったものを東南アジアに向けて非常に力を入れて頑張っていきたいと思っております。

重清委員

何を目玉にしてPRするんですかと聞いたんですけど、それが聞こえなかったんですけど。

藪下国際戦略課長

失礼いたしました。

東アジア、東南アジアということにかかわらず、本県の優れた自然でありますとか、恵まれた食材といったものについて積極的に発信してまいりたいと考えております。

重清委員

パンフレットに優れた自然というのをどうやってPRしているんですか。何が優れた自然ですか。台湾語が何か知らんけどどんなパンフレットをつくっているのか。

それとどれだけPRに行っていますか。台湾、香港、タイのどこへ行ってどんなPRをしてきているのか、そこらを教えてもらえますか。

藪下国際戦略課長

今年につきまして具体的に申しますと台湾につきましては6月と9月に本県から、また上海事務所も通じまして食と農林水産物などとの連携もしながら観光誘客についての取組として現地でPRを行ってまいりました。

香港につきましても6月に香港国際旅遊展に出展するとともに11月に政策監において大阪等地方と都会との連携したPRということで国のビジット・ジャパン事業に基づいて観光PRをさせていただいたところでございます。

またタイにつきましても、年明けに現地でのPR展示会が予定されていますのでこちらのほうに出展してまいりたいと考えております。

以上のような形で取組を進めてまいりますので御理解賜ればと思います。よろしくお願いいたします。

重清委員

これは数字が出ますから数値目標を持って具体的にこうやっていくんだとやってやらない限り1回行ってPRしてきましたというのでは全部終わってしまいます。

他県においては今、外国から来てお金を使ってもらっているんです。徳島県はなぜそれにのっていかないのか。売る物がないじゃないかと。

今私はホテルに泊まっていますが、宿泊しても見に行くところがどこもないです。徳島県は宿泊施設、旅行会社、バス会社とどんな連携をとってどういうふうにしてPRしているのか。今何にもないでしょ。泊まったホテルに県外ナンバーの車はいっぱい止まっています。せっかくのチャンスでありながらPRがない。そこからまずやったらどうですか。食べ物にしても、見に行く所にしても欠けている感じがしますし、ホテルのオーナーもそう言っています。そこからまずやらないといけないと思います。

それとこの間も話に出ておりましたが今、関西広域連合へ行っておりますけど、今までいなかった淡路のサービスエリアの駐車場に朝、車がいっぱいです。それなのに鳴門大橋は渡って来ない、淡路止まりです。その人たちをどうやって捕まえるか。その1割でも徳島へ来てもらえるようなPRを本気でしてください。

今度淡路にPRに行くと言っていますけどどんなPRをするのか、ちょっと教えてください。

仁木観光政策課長

来年、大鳴門橋開通30周年という大きなエポックがあります。

また折しも淡路花博が3月21日から5月末までありますので、関西圏からより一層多くの方が淡路に遊びに来られると予想されます。そこで、こうしたお客様をもう一つ橋を渡って是非とも鳴門へ、そして徳島県内へ、南部へ西部へと誘客していくことが非常に重要であります。

そのための策としてまず第1点は、花博の有効活用でございます。具体的には花博の会場に徳島県のPRブースを設置する、「おどる宝島！パスポート」の発行をする、そして淡路島内の観光施設にパスポートを使える施設として御参加をいただく。一方、淡路花博や淡路島内で参加した方には、徳島へ来たら更にお得だという仕掛けも盛り込んでいく、それらが花博の活用でございます。

また大阪本部と連携して関西圏でのイベントに参加し、農林水産部と連携をした「新鮮

なっ！とくしま号」のPRでございますとか、また県観光協会等とも連携をして、大鳴門橋30周年を記念をした新たな着地型のツアーでありますとか、いろいろなイベント、体験型のイベントなども実施をしていきたい。さらには、旅行会社に対するツアーバスの助成とか、着地型の旅行商品を地元で作っていただいで売り込んでいくと、そして旅行者の皆様方には旅行雑誌やサイトを活用したPRを積極的に打っていきたいと思っております。

重清委員

淡路にたくさんの方が来ているのは今です。

花博のときにそういうことをやりますというのわかります。今は何もしないのか。それだけ言うんだったら花博のイベント以外にもできるんじゃないですか。

今でもあれだけの人が明石海峡大橋を渡って来ているんです。それを花博のときでないとできないという話ですけど、今仕掛けることはできないんですか。徳島でするイベントじゃないと人は来ないのかという話ですから、今やってください。

それと資料にオリンピック東京大会等の開催に向けた取組とありますが、これは商工労働部でやるんですか。それだったら宿泊とかキャンプとかいろんな関係もあると思うんですがどういう体制で取り組んでいくんですか。これは難しいです。

施設の規模がいろいろあるし、どこがやるのか今分からないような状況になっています。商工労働部がやるというのだったら、どうやってオリンピックの誘致に取り組むんですか。

藪下国際戦略課長

ただいま2020年のオリンピックの東京大会に向けての取組について委員から御質問がございました。

これにつきましては庁内におきましても県民スポーツ課、国際戦略課、にぎわいづくり課等々と連携して準備を進めているところでございます。

具体的な取組としてインバウンド国際観光の部分から申しますと、言葉の問題が一番大きいと思いますので通訳等々につきまして、現在ホテルクレメント6階の国際交流協会のほうで中国語とか英語についての相談業務をさせていただいている状況がございます。

外国から来てくださったお客様に対して十分対応できるように外国語ボランティアを含めた取組をまずしていきたいと考えております。

重清委員

オリンピックは既にキャンプの誘致が始まっているんです。

徳島も手を挙げるんだったら今から体制を取っていかないといけない。そこまでの準備は今できていないんでしょ。外国からキャンプ地をどこにするかというので視察に来ています。今売り込んでいかないとはいけません。

ホテルクレメントだけが担当でそこに任せて外国語を話せる人間をそこに置いて対応するということですか。そんな対応で外国人を連れて来られるんですか。既に始まっているんです。世界中にいろんな国があるのにどうするんですか。戦略がひとつも見えてこない

んですけど、大丈夫なんですか。

藪下国際戦略課長

言語についてのお話をさせていただいたところでございます。

委員おっしゃるとおり世界にはいろいろな言語がございますが、まずは英語が一般的に一番よく使われる言葉だと思いますのでこういったところから取り組んでまいりたいと思っております。

世界各国に16億人程度いるといわれるムスリムの方々も大変多くの方が日本にいられています。ムスリムの方についてのハラールの対応として、食事、宗教上のいろいろな取決めもございます。私ども商工労働部だけでは完結しませんが、こういったものについても関係部局と連携しながら順次、取り掛かっていきたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。

重清委員

よろしく願いいたします。

観光対策はもうちょっと戦略を立ててやっていただきたい。外国人観光客と関西圏からの観光客は今たくさん来ていますけど売りが無い。目玉を何か考えてやらないと来ないです。

次に、インディゴソックスとヴォルティスのスポーツ関係について聞きます。

ヴォルティスも1回だけ見に行っただんですけど、やっぱり必死さが無い。幾ら負けてもいいんです。みんなが一生懸命やったと言うチームだったら応援に行きます。あんな試合ではなかなか次に行きたいとは思いません。これが本当の県民の声だと思います。

最後の試合は頑張ったと言うけど、選手は来年どうするかというのがあるから必死でやります。同じように普段の試合から一生懸命やったらどうだと。これだけお金も掛けてやりました、施設を建て直しました、増設しました、小学生も中学生も無料で招待しましたとやるんだったらもっと必死でやらせてください。あんな試合を見せられて、もう一回応援に来いと言ったってなかなか行けません。きついかわかりませんが。

それとインディゴソックスも一緒です。出来てから10年経ったけど、日本一になっても関係ないという感じが今しませんか。徳島のプロ野球チーム、プロサッカーチームと言うんだったら、もっと県民との信頼関係を築いてやっていくべきじゃないですか。

今どうなっているんですか。

新居にぎわいづくり課長

重清委員から厳しい御指摘をいただいたところでございます。

確かに今おっしゃったようにホームゲームで1試合も勝てていないという、これはヴォルティスの話でございますけれども、そういった重清委員の御意見、森本委員の御意見も含めまして私ども、ヴォルティス側にしっかりと伝えて、来季に向けて頑張っていきたいと思っております。

またインディゴソックスにつきましても、今季、前期、後期、完全優勝いたしまして、独立リーグでも勝ち、日本一となったところでございます。

特にインディゴソックスにつきましても、地元の小学校でありますとか、地元の会合とかでスクールガードでありますとか、いろんな住民の方とのつながりというものを積極的にやっていただいておりますので、これを更に推し進めていただきたいと思いますと思っております。

また我々もプロスポーツを使ってのにぎわいづくりということですので、積極的に一生懸命PRしていきたいと思っております。

重清委員

インディゴソックスが日本一になった。でも弱くてもいいんです。

一生懸命やっている阪神がなかなか勝てないときでもずっと阪神ファンは応援しています。広島だって一緒です。やっぱり地域のチームということで応援します。

インディゴソックスは最初につくるときだけ石毛さんが来ていろいろやっていたけど、あとは全然関係していません。

それとプロ野球選手として出て行っているんですけど、誰が行ったかも知らない。今はその程度です。地域のチームとしてやっていくんだったら、もう少し密着させたらどうですか。そうしない限り、県のお金を使うのはどうかなということをやっぱり言われます。せっかくプロ野球選手に何人も出て行っているはずなのに、プロになったらもう一切関係ないという感じで、せっかく育ててつながり持っても、二、三年だけの関係という、そんなやり方では長続きしません。

県が関わっているんだったら、もう少し地域として支えようという体制をやっぱり取らないといけません。県はお金だけ出しているんだというのでは、なかなか盛り上がってこないと思います。

J1になってもみんな安い給料で一生懸命やっています。インディゴソックスだって安いと思います。給料20万円ですか。（「13万ぐらい」と言う者あり）13万ですか、手取りが。みんな夢を持ってプロ野球選手になるんだと言って頑張っているから、それを支えたいんだけど、全く県民とのつながりがありません。やっぱり県として予算を組んでやっているんだったら、何か考えてあげたらどうかと思います。

ヴォルティスはJ2へ落ちますけど、今が大事なときです。J2へ落ちたときに県民がどれだけ支えてくれるか、これをしないとイケないです。J1は放っておいたらみんな来ます。J2になったときにどうするのか。何年掛けてもう一回J1へ上がれるか。今みたいな試合ではしんどくて駄目です。本当に一生懸命やらせてください。

私はスポーツ好きですから見に行きますけど、一回見に行ってもうええわと思ったのは久しぶりです。あんな試合だったら小学生や中学生に見せる必要がない。

来年度に向かってインディゴソックス、ヴォルティスと県民とのつながりをどういう体制でやっていくのか教えてください。

新居にぎわいづくり課長

来年度に向けての体制ということで御指摘いただいたところでございます。

まずヴォルティスにつきましては、ホームタウン協議会というのがございまして、出資しております3市4町がスクラムを組んで、毎回、ホームタウンデーとして住民の方、小中学生を無料招待したり、そのときにパークに各市町のブースを出したりということで交流事業を進めておるところでございます。

今年につきましてはもう一步進めまして、最終日のガンバ戦に県民デーということで、全市町の御担当の方に応援していただけるお声掛け、それと応援バスといったもので、渋滞対策の一環ではございましたが、小中高生を御招待したり、付いていただける保護者の方にも車で来ていただいたりといったことをさせていただきました。

こういった事業を更に展開していきまして、今委員から御指摘がありましたようにもともとクラブヴォルティスの柱の一つとして、愛されて強くなるという大きな目標がございます。この基本にもう一度立ち戻って来季に向けて活動していけますように協議してまいりたいと思っております。

またインディゴソックスにつきましては、先ほど申しましたように日本一になった。しかし一方で、観客数につきましては、去年とほとんど変わらない増加にとどまっておりますので、県の都市計画課と一緒にになりまして、まず蔵本公園駐車場の拡大をさせていただいております。地元協議も終わり、関係者の合意もいただきましたので、11月の末より工事を開始いたしました。これにより観客が見やすい状況をつくります。

それから、インディゴソックスは教育委員会とタッグを組んで、子供たちにボールを投げて体力向上をさせるといったことで教室に出向いて行ったり、スクールガードをしたり、あるいは今年でありましたら、自ら藍染めの作業を手伝いに行ったりというように草の根的な活動しております。こういった活動を更に広げていただきまして、またそれも県民の皆様にアピールできるように、県のほうも積極的にこういった活動をしていますよというのを出して、委員からもよし、よくやったと言ってもらえるよう、積極的にPRしていただけるように頑張っていきたいと思っております。

重清委員

インディゴソックスは、私の地元の祭りにも来たり、いろいろイベントに来て、物を売ったりして一生懸命に選手は頑張っています。でもまず選手の名前を知らないというのがあるんです。もう少し県民との距離を縮めてあげたらいいのになあという感じがします。

それとやっぱりスポーツは一生懸命してくださいと。幾ら負けても一生懸命していたら皆、支えてくれるんです。

ヴォルティスは今の試合では無理です。J2でおったらええくらいの目標ではあかんし、何年計画で絶対にJ1に戻るんだと言ってしないとJ3に落ちます。

小学生、中学生をどんどん連れて行ってそのお金を県が出すというのだったら、しっかりと県民と協調するようになるべきだと思います。それはしっかりとするようにお願いいたします。

次は、もう最後にしますが、この資料の一番最初に、都市部や大企業を中心に明るい

兆しは随所に見られるが、地域経済の景気回復には遅れがと書いてあります。このとおりだと思いますけど、徳島県の都市部と地方、地域の経済はどんな状況ですか。

黒下商工政策課長

ただいま重清委員から県内の経済状況につきましてお尋ねをいただきました。

今現在、消費税の導入によりまして消費が十分でないといったような状況もありますが、日本銀行、それから各シンクタンクの発表によりますと、県内の景況につきましては、設備投資とか公共投資を中心に持ち直しつつあると。住宅投資についても底がたい状況が続いているということで、非常に厳しい状況ではありますが従前に比べまして回復基調にあると認識しております。

ただ、やっぱり県内においても地域によってその回復度に様々な状況が見られるところでごさいますので、私どもといたしましては、こうした県内全体の景気を回復していくという意識のもとで施策の展開を図ってまいりたいと考えております。

重清委員

東京一極集中では駄目だということで、「vs東京」と徳島県も最初は言ったと思います。今徳島県内を見ても、やっぱり都市部と地方部の格差が出てきているように思うんですけど、これをどのように改善しようとしているのかお伺いいたします。

国がおかしいと言うのだったら、私からすると県もおかしいじゃないか、どうするのかという話です。

黒下商工政策課長

ただいま重清委員から、県内の格差をどのように是正していくのかといった御質問をいただいております。

実際の有効求人倍率等を見ましても、雇用の状況も地域によって隔たりがあるといったような状況でごさいます。やはり経済を強くしていくためには、地域の資源を有効に活用して、経済を活性化させていくと。懸命に頑張っておられる県内企業の皆様方に対しては商工会とかそういったあらゆる機関を通じまして、しっかりと経営をお支えする。

それと新たな産業、先ほどイノベーションの御質問もございましたけれども、付加価値の高い製品づくりを進めることによりまして、都市部を中心に競争力を持った商品を徳島県からどんどん出して行く。また、観光誘客も進めることによって、交流人口で外貨を県内に落とすしていく。

こういうあらゆる施策を総合的に展開することによりまして、地域の格差と県内全体の景気の高揚感が実感できるように取り組んでいきたいと考えております。

重清委員

都市部を中心に言ってくれているんですけど、地方はどうするんですか。

黒下商工政策課長
県内の話ですか。

重清委員

県内です。

企業誘致もしていないし、地方は苦しんでいるのにどうするのかということを知っているんです。地方創生と言ったって働くところがないじゃないかと。これが一番だということで県は国に対して一極集中はおかしいと文句を言っているんだけど、この話も一緒でしょう。徳島市だけ企業がたくさんあるじゃないかと。地方にこのうちの一つでも来てくれないのかという話をしているんです。

地方への企業誘致をするのか、しないのか。

脇田企業支援課長

ただいま重清委員のほうから企業誘致の関係で御質問をいただきました。

県としてはかねてから二つの光ということで企業誘致、成長分野企業の誘致を進めているところでございます。

それからサテライトオフィス、コールセンターなどの情報通信関連企業の誘致についても進めております。サテライトオフィスは余り雇用が認められないところではございますけれども、コールセンター等につきましては女性を中心に雇用が多く見込まれるということもございますので、こういったところを推進しております。

特に中山間地におきましては、やはりサテライトオフィス等を中心にした企業誘致を行っていきたいと考えております。例えば南部におきましては、10月に企業の方にも施設を見ていただいたり、それから先月におきましては、中山間地での立地希望がございました企業に対しましても企業訪問をさせていただいたところでございます。

今後におきましても、例えば豊かな自然でございますとか、気候でございますとか、人情、こういった地域の特性を十分アピールしつつ、可能な限りその地域を見ていただいて、その地域を好きになってもらって立地につなげていけるように今後とも進めていきたいと考えております。

重清委員

企業誘致の補助金はどこであろうと同じように出しているでしょう。集積と言ってまた都市部だけやるのかと、そうじゃないです。地方を再生するには、雇用がないと話にならない。これを早くやってくれと。

県として地方創生で、企業関係、雇用の場といった一番大事なことを来年度に向けての取組の中でどのように考えているかです。

もう一つあるのが農商工連携です。

やっぱり地方は一次産業を立て直さないといけない。これに対する企業化、法人化いうのをどうするのか。これを支えていくとか指導していくという話もあったと思うんだ

けれども、来年度どの程度やるのか。これをすれば、地方はある程度生き返ってきます。

県としては、来年度一次産業に対してどういう対策を取るのか。新たな事業ステージの構築と資料に書いてありますが、恐らくこれでしょう。まだ、形も実績も見えてこない。本当に連携してください。

農業、漁業、林業と商工をどう組み合わせさせてやっていくのか、教えてもらえますか。

森口新産業戦略課長

ただいま重清委員のほうから農商工連携に関する御質問をいただきました。

現在、商工労働部といたしましては、県内の農林水産業の現場の方と県内のものづくり企業を結び付けていこうということで取組をさせていただいております。

具体的には、県内ものづくり企業に声を掛けまして、もう一方では、農林水産の現場の方々にもいろいろ生産上の課題や効率性の課題をいただきまして、それをものづくり企業につなぎまして、新しい製品開発、農業の効率化を良くするような機械ができないかということで今進めさせていただいているところでございます。

これにつきましては一応、現場の課題解決型ということでの農商工連携ということを今進めさせていただいておりますが、来年度に向けましては逆にものづくり企業のほうから、例えば、こんなシステムにしたらより農業が効率的にできるんじゃないかといった提案型も目指した新たな形で農商工連携ができないかということについて検討してまいりたいと考えている次第でございます。

重清委員

農商工で課題解決と言うけど、結局それをして問題点に上がるのが販路です。販路をどうするかでしょう。販路の体制をどうやって組んでいくのか。

6次産業がつくっても一緒です。販路の問題が最後に出てくる。これでみんな失敗してやめたんでしょう。これをまた失敗するわけにはいかないんだけど、販路体制はこういきますと、県はこれだけ支援しますというのを示さないといけません。この販路で、今言っていたサテライト企業と連携できないかとか、いろんなものを本当に動かしてほしい。もうこれしかないでしょう。みんな商品はつくります。農作物もいいものが今いっぱいあります。ただ、たくさんつくっても売れない、製品にしても売れないでしょうというのがあるんです。もう何十年も前に問題点はここだと分かっているんです。地方は先に全部分かっている。

雇用がない、若い人たちが働く場所がないから、人がおらんようになっていきます。今戻らせるんだったら、どうしたら戻ってくれるのか。それは企業誘致、雇用の場所をつくることでしょう。企業誘致ができないんだったら、今ある地場産業をどうにかして、人が働けるようにしてください。こういうことに取り組んでほしいです。

つくったものは売れるようにしますから、売ってくださいと。農家はつくるのが手いっぱい、売るまでは無理です。それだったら法人化しませんかと。そのためにはこういう体制でこうやったらどうですかという指導をしてほしい。

今から問題点は何かというときではないです。何十年もやって、地方も失敗し、企業も失敗しているんです。この点をどうするか。真剣に取り組んでいただけますか、部長。

酒池商工労働部長

ただいま重清委員さんから御指摘いただきました件についてでございます。

まず地方創生の観点から、徳島県でも地方のほうに雇用の場を確保すべきでないかというところでございます。

現在美波町とか、中山間地域にも東京、都市部のほうからサテライトとして来ています。それを更に加速させまして、県内に広げていくということが1点と、それともう一つは、県内でいろいろ徳島市等に集中しております企業の雇用に地方のほうへ広げていくということで、これは本会議で重清委員さんからの質問にお答えさせていただきましたけれどもテレワークという一つの手法がございます。

なかなか地方のほうに企業が立地しないということであれば、例えば地方の方が徳島市の企業における仕事を地方において受注できるような仕組みをつくっていきたい。県南、県西の方々が、その場にながら徳島市内とか中心部の企業の仕事を地元で受けられるような体制の整備をしていききたいと。

そういったことで有効求人倍率も中央に比べて、県南、県西のほうが高いということになっていますから、それについてももっと上げていききたいと思っております。

それから農商工連携につきましては、おっしゃるとおりでございます。特に地方においては、それを六次産業化して売っていくと。それで、付加価値を生み出して、また地方に雇用を創出するという循環が大変重要であると思っております。

現在、商工労働部といたしましては、6次産業化をするための加工とか販路拡大につきましてはファンド事業がございますので、それで支援をさせていただいております。

当然、県内におきましてもそうですけれども、これからそういう徳島県の農産品の強みを海外に展開していくということで、地域商社というものを今考えております。これについては実証実験を今年やっております。1企業、数企業が集まって海外展開するというのはなかなか難しいので、これを徳島県全域のいろいろな加工品をまとめた形で海外に売っていき、そういった販路拡大をしていくためのノウハウを持った地域商社のようなものを育てて販路拡大を展開していききたいと考えております。

来代委員

委員長、お願いがある。

知事に申し込むのを信用しないわけじゃないんだけど。

今池田は10センチくらい雪が積もっています。今夜からまた心配なんです。だから県民会議の会長も幹事長もいるし、新風・民主クラブの偉い人もいますので、委員長、この委員会の総意で知事に申し込むということでちょっと決めてもらってよろしいですか。

喜多委員長

どうでしょうか。

（「結構です」と言う者あり）

それでは、委員会の総意で申し入れるということで。

（「嘘を言ったら分かるし、知事の大事な決意表明の前に四国電力にこういうことをしたって挨拶できるくらいのことをやっぱりせないかん」と言う者あり）

では、それでよろしくをお願いします。

それでは、これをもって質疑を終わります。

これより採決に入ります。

お諮りいたします。

ただいま審査いたしました商工労働部関係の付託議案は、原案のとおり可決すべきものと決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって、商工労働部関係の付託議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【議案の審査結果】

原案のとおり可決すべきもの（簡易採決）

議案第1号、議案第2号、議案第17号、議案第18号、議案第19号

次に、請願の審査を行います。

お手元に御配付の請願文書表を御覧ください。

請願第57号「労働者保護の立場に立った法改正及び法制審議の推進について」を審査いたします。

本件について、理事者の説明を求めます。

酒池商工労働部長

請願第57号につきまして、御説明させていただきます。

労働者規制に関する国の動きの状況についてであります。

まず、解雇の金銭解決制度については、透明かつ公正・客観的な紛争解決システム等の在り方について、労働政策審議会で詳細を詰め、早ければ平成28年の通常国会で関連法の改正を目指すこととなっております。

また、勤務地や労働時間を限定した多様な正社員の導入については、企業が導入する際の指針が取りまとめられ、限定正社員の普及を目指し、シンポジウムの開催などが行われております。

さらに、ホワイトカラー・エグゼンプションについては、一定の年収要件を満たし、職務の範囲が明確で高度な職業能力を有する労働者を対象に、新たな労働時間制度を創設することとし、労働政策審議会において検討の上、次期通常国会を目途に所要の法的措置を

講ずることとなっております。

次に、現在3年となっております企業の派遣労働者受入期間の上限廃止を柱とする労働者派遣法改正案については、さきの臨時国会に提出されておりましたが、衆議院が解散され、廃案となりました。

なお、雇用・労働政策に係る議論については、公益、労働者、使用者の三者の委員からなる労働政策審議会において審議が行われており、案件により政府から諮問されることとなっております。今後、こうした国の動きを注視してまいりたいと考えております。

喜多委員長

理事者の説明は、ただいまのとおりであります。

本件は、いかがいたしましょうか。

（「継続」と言う者あり）

（「採択」と言う者あり）

それでは、意見が分かれたので、起立により採決いたします。

お諮りいたします。

本件は、継続審査とすべきものと決定することに賛成の方は、御起立を願います。

（賛成者起立）

起立多数であります。

よって、本件は継続審査とすべきものと決定いたしました。

以上で、請願の審査を終わります。

【請願の審査結果】

継続審査とすべきもの（起立採決）

請願第57号

これをもって、商工労働部関係の審査を終わります。

次に、お諮りいたします。

委員長報告の文案は、いかがいたしましょうか。

（「正副委員長一任」と言う者あり）

それでは、そのようにいたします。

次に、当委員会の閉会中継続調査事件について、お諮りいたします。

お手元に御配付しております議事次第に記載の事件については、閉会中に調査することとし、その旨、議長に申し出たいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

これをもって、経済委員会を閉会いたします。（12時41分）

